

# 献血でつながる思い

～あなたの一歩で救える命がある～



○照会

市役所国保健康課 ☎ 0537-651171

静岡県赤十字血液センター浜松事業所 ☎ 053(421)3151

小笠高等学校での献血の様子

## 常に必要とされる「血液」

皆さんは、自分たちの周りに「輸血」を必要とする人が数多くいることをご存じですか。輸血というと、事故によるけがをイメージする人も多いかもしれませんが、血液は病気で定期的に輸血を必要とする人や高齢者の医療などに使われることの方が多く、常に必要とされています。

医療技術が日々進歩していても、今のところ血液は人工的に作ることも、長期間保存することもできません。そのため、血液が足りない人や体の機能が弱っている人には、輸血という形で血液を補うしか方法がないのが現状です。

## 深刻な献血者数の減少

輸血に必要な血液は、すべて献血によって賄われています。しかし、献血者数は減少傾向にあり、市内でも平成26年度の献血者数は、5年前より313人少ない965人。特に、若年層の減少が著しく、全国的には10～20歳代の献血者が10年前より32%も低下しています。このまま減少し続ければ、平成39年には85万人分の血液が足りなくなるというわれています。(日本赤

十字社の推測による)

血液不足が深刻な中、小笠高等学校では3年前から学校での献血を開始。平成26年度は31.4%の生徒が献血に協力し、自発的な献血の輪が広がっています。

あなたの大切な人が、重い病気や事故で大量の輸血が必要ときに血液が足りず、助かるはずの命が危険にさらされる…。献血時の針の痛みを乗り越え、少しの時間を掛けるだけで、その命が助かるとしたら…。

輸血用の血液を十分確保するには、私たち一人一人の献血に対する理解と協力が必要です。

## あなたの思いがつなぐ命

現在日本では、人口減少とともに高齢者などの輸血を必要とする人が年々増加しています。

献血は多くの人をつなぐ命のリレーです。少しの勇気と思いやりで救える命があります。事情があつて献血できない人も、身近な人と献血について話すことが誰かの命を助けることにつながるかもしれません。

あなたのその一歩を待っている人がいます。血液を必要とする人の、かけがえない命を未来へつなぐため、あらためて献血について考えてみませんか。